ジャンダルム飛騨尾根～ヘッ電に始まりヘッ電で終わる～

【報　告　者】F 谷
【日　　時】2018 年 4 月 28 日～4 月 30 日　　【天　候】全日程晴れ
【参　加　者】F 谷、T 内（Team diagonal）

≪コースタイム≫

4 月 28 日　10:28　新穂高温泉　⇒10:18　白出小屋　⇒4:30　天狗沢出合「テント設営」
4 月 29 日　3:00　起床　⇒4:00　出発　⇒6:40　D 尾根トラバース　⇒16:30　ジャンダルム　⇒18:30　奥穂山頂　⇒20:00　穂高岳山荘
4 月 30 日　6:00　起床　⇒7:30　穂高岳山荘出発　⇒天狗沢出合「撤収」　⇒14:00　新穂高温泉

≪　報　　告　≫

15 年のゴールデンウィークにコブ尾根、17 年のゴールデンウィークには奥穂南稜とここ数年のゴールデンウィークは、穂高方面に登ることが多かった。18 年も同山域で登ってないルート且つ、気になっているルートということでジャンダルム飛騨尾根を計画した。

4 月 28 日　前泊で松本駅に宿泊しており、同行者の T 内さんに車で迎えに来てもらい、新穂高温泉に向かう。松本駅から島々、沢渡、釜トンネルなどいつもの風景を見ながら移動。天気予報は 3 日とも好天で、いやがうえにも期待が高まる。新穂高温泉の無料駐車場に停車し、10 時 30 分に新穂高温泉のビジターセンターを出発。周囲には西穂のロープウェイに乗る観光客がおり、いずれも楽しそうだ。山に入る人は早立ちしているせいか、山屋は少ない。およそ 4 年ぶりに新穂高温泉側から山に入り、槍ヶ岳以来だ等と話しながら林道を歩く（槍ヶ岳に登るのは新穂高温泉側からのルートが最短）。

穂高平小屋を通過し、12 時 20 分に白出沢の分岐に到着。ここからは、夏道を使って天狗沢のテン場に向かう。夏道は、雪が残っていたり、藪が出ていたりしていたが、トレースも少し残っており、活用させてもらいながら標高を稼いだ。道中、傾斜のある西穂沢が出てきて、山に来たなと実感する。14 時 30 分に目標の天狗沢のテン場に到着。他にパーティーは 1 組。挨拶をしてテントを設営し、暖かいので外で水を作りながら小宴をスタート。黒ラベルが上手い！天気が良くて笠ヶ岳が綺麗に見えており、とても気持ち良い。晩御飯を食べながら明日の確認をして早めに就寝。

新穂高温泉ビジターセンター

天狗沢テン場付近

4 月 29 日　午前 3 時起床。朝ごはんを作っていると隣のパーティーが出発していった。我々より 30 分程、早く出発。自分たちは、食事を済ませて 4 時に出発。天狗沢方面に歩いていくと先行パーティーのトレースが一部残っており、活用させてもらいながら尾根に取りつく。極力、雪の部分を使って標高を稼ぐ。樹林帯を歩いていくと、整地されたテント場を発見。何パーティーぐらい入っているのかなと話しながら登っていく。6 時 40 分に飛騨尾根にあがるトラバースポイントに到着。ここで 4 人組の先行パーティーが見えた。全装を担いで登っておられるようで大変そうだ。飛騨尾根に上がるために 2 回のトラバース。落ちたら天狗沢まで落ちる。雪は締まっており、よく効く。ダブルアックスとアイゼンのフロントポイントでトラバース。

先行する 4 人組パーティー

D 尾根からγ沢上部をトラバースし、
ジャンダルム飛騨尾根（C 尾根）に乗る

飛騨尾根に乗ると雪が無く、ハイマツの上を歩きながら岩稜地帯まで移動。10 時 10 分に岩稜地帯に到着し、岩稜を登る。核心部のコルらしきところでロープを出す。核心部は T 内さん。体感でⅣ級くらい。荷物をもってアイゼンで登るのはしんどい。T 内さんはフリーで、自分は掴んで登る。ハーケンがぐらついていた。

そこからは、Ⅲ級程度の岩場や岩稜地帯が続く。ロープを結びながら登って行ったが、なかなか標高が上がらない。残置のハーケンは余りなく、リンクカムを使いながら支点を取る。ガバばかりだったが、アイゼンで登っていたので慣れなくて緊張する。
また、先行パーティーの 4 人組に追いつき、順番待ち。天狗沢にテントを張ったパーティーは、4 人組の先を登っていかれたようだ。

景色を眺めながらクライミング。天気は良くて暖かくて気持ち良いが、何せルートが長い。先が見えないところでは、まだ続くのかなと話しながらクライミングを継続。熱くなるかもしれないとの事で水を 1.5 リットル担いでいたが、どんどん無くなり焦る。時間もどんどん過ぎてゆき焦る。

順番待ちしていると、4 人組のパーティーが先に行ってくださいと順番を譲って頂いた。ありがたく、横から抜かさせてもらう。

16 時ジャンダルム到着。自分はシャリバテを起こしており、フラフラ。記念撮影も早々に穂高岳山荘に向かう。Web の記録でも見たが、ジャンダルムを登ってからが核心と書かれていたが、まさにその通りだと思った。ジャンダルムからは懸垂 1 回。ロバの耳でナイフリッジを渡り、懸垂を 1 回行う。
疲れた体でロバの耳を越えて奥穂山頂まで行くのは中々大変だった。

ジャンダルムから槍ヶ岳を望む

エンゼルの前で記念撮影

18 時 30 分　奥穂山頂に到着。ここまで来たら大丈夫だなと一安心。ヘッ電を装着。月明りとヘッ電を頼りにクライムダウンと懸垂を活用して穂高岳山荘に向かう。
20 時に穂高岳山荘到着。行動時間が 16 時間とかなりの時間がかかった。山荘には電話連絡をしていたので、食事を取って頂いていました。ビールがとにかくうまかったです。

4 月 30 日　6 時起床。昨日のダメージが抜けきれてない。ゆっくり起きて朝食を取り、7 時半にテン場に向けて下降。テントを撤収し、帰路は沢筋を利用して新穂高温泉に 14 時に到着。

穂高岳山荘から前穂北尾根

穂高岳山荘からテン場に向けて下る

【感想】
とにかく時間がかかりすぎた。原因は、体力不足とロープの出しすぎだったと思う。渋滞もあったが、考えていたより 3 時間も遅れた。次回は 16 時間行動などしないようにしたい。